

芸術科（書道Ⅰ）学習指導案

府立〇〇高等学校 〇〇 〇〇

1 日 時 平成 26 年〇月〇日（〇） 5・6 限

2 場 所 府立〇〇高等学校 書道教室

3 対 象 学 年 第 1 学年 芸術科書道 選択生 40 名（1 年〇組）

4 単 元 名 行書の学習（蘭亭序）（12 時間）

5 教 科 書 「書道Ⅰ」（東京書籍）

6 単 元 目 標

- （1）行書の伝統と文化に関心を持ち、行書の表現や鑑賞の創造的活動に主体的に取り組む。
（書への関心・意欲・態度）
- （2）行書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫する。
（書表現の構想と工夫）
- （3）行書の基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表す。 （創造的な書表現の技能）
- （4）行書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え行書のよさや美しさを創造的に味わっている。
（鑑賞の能力）

7 教 材 観

行書体は、速く書くことができ読みやすく日常生活においても非常に有効的な書体である。また行書の中でも楷書に近いものから草書に近いものまで幅広く、芸術的にも多様な表現ができる。運筆の緩急や抑揚がはっきりとしており、筆の流れや動きを学習することに適している。行書の古典として最も高く評価される「蘭亭序」を学習することは、行書の特徴の理解を深め書表現の幅を広げるだけでなく、書を見る目をより確かなものにできると考える。古典を見て、生徒自身が美しさを感じとり味わうことを期待している。日本の書に大きな影響を与えた王羲之の書を知ることで、書の伝統と文化についても理解を深めることができる。

8 生 徒 観

「略」

9 指 導 観

中学校の書写以来触れていない行書体に触れることで、書表現の多様性を知り、幅広い表現技能を身につけさせたい。楷書と行書の違いを認識させるなど基本的事項から学習させ、行書の特徴だけでなく楷書の特徴についても改めて理解が深められるようにしたい。行書の特徴を理解したうえで運筆の呼吸やリズムを感じ、のびやかな線質を表現できるよう指導したい。また学習したことを言葉にして表現させることで鑑賞する力を養い、書の美を体験的に感じ取らせたい。

10 単元の評価規準

	書への関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技能	鑑賞の能力
単元の評価規準	〔表現〕 行書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現の創造的活動に取り組もうとしている。 〔鑑賞〕 行書の伝統や文化に関心を持ち、書のよさや美しさを感じ取り、主体的に鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。	行書の美を構成する諸要素を把握し、感性を働かせながら自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な書表現をするために、行書の基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け、表している。	行書の伝統と文化について幅広く理解し、古典の表現の特徴を的確に理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。
学習活動に即した評価規準	〔表現・関①〕 古典の美とその技法に関心を持ち、表現方法を高めようとしている。 〔鑑賞・関②〕 中国等の文化と書の伝統について関心を持ち、そのよさや美しさを感じ取ろうとしている。	〔構①〕 行書の美とその表現方法を学び、多彩な表現を工夫している。	〔技①〕 行書体の基本的な用筆・運筆、字形の取り方などを理解し、効果的な表現の技法を身に付け、表している。	〔鑑①〕 古典の特徴を理解し、相互批評を通じ、積極的に伝えることができる。 〔鑑②〕 鑑賞と表現が相互に関連していることを理解し、行書のよさや美しさを感じ取っている。

11 指導と評価の計画（全 12 時間）

時間	学習のねらい	学習活動	学習活動に即した評価規準				評価方法、留意点等
			関	構	技	鑑	
1 ・ 2	行書の歴史や特徴について理解する。 行書の基本的な表現技法を身につける。	行書の歴史、特徴を学び、基本的な書き方を知る。	関①		技①		行書の歴史や特徴に関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。（観察） 行書の基本的な技法を習得している。（作品、観察） 評価の場面Ⅰ
3 ・ 4 本時	「蘭亭序」についての知識を広げ理解を深めたうえで特徴を理解する。 書の伝統と文化について理解する。	行書の特徴を振り返る。 「蘭亭序」や王羲之、その時代背景について学ぶ。中国と日本の書の歴史についても関連させる。 籠字をとり、「蘭亭序」の特徴を分析する。	関① 関②			鑑②	「蘭亭序」に関心を持ち、知的理解を深めようとしている。（観察、授業プリント） 王羲之やその時代背景、中国と日本の書の歴史など、書の伝統と文化について理解を深めている。（観察、授業プリント） 蘭亭序の文字の特徴についてグループで共有し、その美を感じ取っている。（観察）

5 ・ 6	「蘭亭序」の用筆、運筆、字形のとり方の特徴を捉え表現する。	半紙4字書きにより「蘭亭序」から行書の特徴を理解し、筆順を始め、用筆法、運筆法、リズムカルな書線を理解し表現する。		構①	技①		「蘭亭序」の用筆、運筆、字形のとり方を理解している。 (観察) 「蘭亭序」の書風を理解し表現している。 (作品) 評価の場面Ⅱ
7 ・ 8 ・ 9 ・ 10	「蘭亭序」の特徴を表現しながら気脈の統一を意識した作品を制作する。 半切作品としてのおさめ方を考えて表現する。	「蘭亭序」の特徴を振り返りながら半切4分の1に書く。 半切作品におさめることにより、「蘭亭序」から行書の特徴を理解し、文字の大小、潤渇、構成法等に注意し、表現する。		構①	技①		多彩な表現を工夫しながら意欲的に制作に取り組んでいる。(観察) 文字の大小、潤渇、構成法等を考えながら、工夫し多彩な表現をしている。(作品)
11 ・ 12	作品制作活動の自己評価、他者への確に伝える活動を通じ、古典の特徴をより深く味わう。	半切作品発表会により、鑑賞や相互批評を行う。				鑑① 鑑②	鑑賞や相互批評が古典の特徴把握に有効に結びつくことを理解し、鑑賞活動に意欲的に取り組んでいる。(観察) 制作の自己評価を行い、自分の言葉で発表している。 (観察、作品) 評価の場面Ⅲ

12. 観点別評価の進め方

観点と評価規準		評価基準	具体的にはどこを見る？
評価の場面Ⅰ	行書の基本的な技法を習得している。	A 行書の基本的な技法を理解し、表現できている。 B 行書の基本的な技法を理解し、表現しようとしている。 C 行書の基本的な技法を理解できておらず、十分に表現できていない。	評価するもの…半紙作品 ・ 曲線的でのびやかな線で書けているか ・ 緩急をつけて運筆できているか ・ 抑揚をつけられているか ・ 点画のつながりを意識しているか ・ 筆脈を通して書けているか
評価の場面Ⅱ	「蘭亭序」の用筆、運筆、字形のとり方を理解し、表現している。	A 「蘭亭序」の用筆、運筆、字形のとり方を表現できている。 B 「蘭亭序」の用筆、運筆、字形のとり方を表現しようとしている。 C 「蘭亭序」の用筆、運筆、字形のとり方を十分に表現できていない。	評価するもの…半紙作品 ・ 点画のつながりを意識しているか ・ のびやかで和らぎのある運筆ができているか ・ 字形を正しくとらえて整えられているか ・ 筆脈を通して書けているか

評価の場面Ⅲ	制作の自己評価を行い、自分の言葉で発表している。	A 自己の作品制作を的確に振り返ることができ、自分の言葉で発表している。 B 自己の作品制作を大まかに振り返り、発表している。 C 自己の作品制作を十分に振り返ることができていない。	評価するもの…制作振り返りシート ・臨書をする上で気をつけるべき「蘭亭序」の特徴を正しく理解しているか ・うまくできた部分とできなかった部分を分析できているか ・感想をきちんと書けているかどうか
--------	--------------------------	--	--

13. 本時の展開（3・4時）

（1）本時の目標

- ・書の伝統と文化について興味を持ち、意欲的に学習に取り組む。
- ・「蘭亭序」についての知識を広げ理解を深めたうえで特徴を理解する。
- ・「蘭亭序」と王羲之やその時代背景など、書の伝統と文化について理解する。

（2）本時の評価規準

関① 「蘭亭序」に関心を持ち、知的理解を深めようとしている。

関② 王羲之やその時代背景、中国と日本の書の歴史など、書の伝統と文化について関心を持ち理解を深めようとしている。

鑑② 蘭亭序の文字の特徴についてグループで共有し、その美を感じ取っている。

（3）本時で扱う教材

- ・教科書：「書道Ⅰ」（東京書籍）
- ・教材プリント

（4）本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
（導入 10分）	・前時の振り返り ・本時の内容と目標を知る。	・出欠確認 ・前時のプリントと作品を返却しファイルにとじる。 ・前時の内容（行書の基本点画）を確認した上で本時の内容を説明する。	観察

展開 (85分)	・「蘭亭序」について知る。(15分) ・「蘭亭序」について確認する。(10分) ・王羲之の書が日本の書に大きく影響を与えたことを学ぶ。(5分) ・籠字をとり、蘭亭序の特徴を分析する。(15分) ・籠字をベースに項目ごとに詳細な分析を行う。(10分) ・グループになり、分析した結果を共有し、発表する。(20分) ・籠字をもとに、蘭亭序の文字を硬筆で書く。(10分)	・本時のプリント配布 ・蘭亭序に関するパワーポイントスライドを見せながら説明し、気づいたことや印象に残ったことをプリントにメモさせる。 ・質問形式で生徒を当て、蘭亭序や王羲之に関する知識を答えさせ、理解を深める。 ・黒板に板書し、プリントの穴埋めをしていく。 ・質問項目以外で蘭亭序の説明を聞いて気づいたこと、印象に残ったことを発表させる。 ・空海の書や光明皇后の楽毅論など、王羲之から影響を受けた日本の書を紹介する。 ・中国の書が日本の書に影響を与えたことを知り、書の歴史と文化について理解を深める。 ・籠字の取り方について説明し、「流觴曲水」部分の籠字をとる。 ・文字の特徴が損なわれないように慎重に籠字をとるよう机間指導する。 ・項目ごとに注目して分析させる。 ・縦画 ・横画 ・斜画 ・線の変化 ・上下左右のバランス 等 ・気づいたことをプリントに記入する。 ・グループで共有し、自分で発見できなかった点を気づかせる。 ・グループで分析結果をまとめ、発表させる。グループ対抗でいくつ発見できるかを競い合う。 ・籠字をとる作業や発表を聞いて気づいた特徴を意識しながら硬筆で蘭亭序を書く。(8マスノートの枠に書く)	蘭亭序、王羲之やその時代背景についての知識理解を深めている(観察、発表、授業プリント) 中国と日本の書の歴史や文化に関心を持ち、理解を深めている(観察、授業プリント) 蘭亭序に関心を持ち、主体的、意欲的に作業に取り組もうとしている。(観察) 蘭亭序の特徴を細かく分析し、理解している。(授業プリント、発表)
まとめ (5分)	・感想を書く。 ・本時の課題を提出する ・後片付け	・本時の内容を振り返り、感想を記入する。 ・名前を書いていることを確認し、プリントを提出させる。 ・後片付けをきちんとさせる。 ・次回予告をする。	教材プリント